関係者用資料
Confidential

『ポリネコ！』とは何か？

ー背景と展開ー

社会のコミュニケーション性能を
向上させる特許技術に基づくエンジン

HammerBird
to redesign our world to think,decide & act by yourself
岩田崇（株式会社 ハンマーバード / takashi@hammerbird.jp ）

2020年6月15日

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

Political Needs Coordinator
Polineco! PAT
ポリネコ!

『ポリネコ！』とは、Political Needs Coordinator
国民的議論、地域を挙げた議論を可能にする
唯一のコミュニケーション方法です。

国民的議論、地域を挙げた議論とは、
人々がデータ、ファクトなどに基づく意思表示（輿論）を
相互に行い、国権の最高機関である国会議員、地方議会と共に、
社会的課題に向けた最適解、納得解を確立、共有、更新できる
コミュニケーションです。
ビルド/シェア/アップデート

民主制とは、
開かれた議論、討議の場を前提としているシステムです。
この前提が確保されない時、システムは機能不全となります。

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

コロナ禍で顕になった
私達の社会の現状（大きな課題から逃げる/放置する/忘れる）

政治・行政　　：無謬性を指向する

科学者・専門家：失敗を前提に新たな知見をもとに
アップデートを繰り返す

社会の人々　　：安心・安全を求めてしまう

目標を共有できない社会

人々を繋ぐ『信頼/TRUST』を構築する
コミュニケーションが不可能な状態

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

私達の社会とコミュニケーションの性能不足による社会的損失の一例（情緒に走り、大きな課題から逃げる/放置する/忘れる）

この性能不足の状態を脱しなければ、国が傾き社会が衰退する

これらは“開かれた議論の方法”を私達が持っていれば、回避できた可能性が高い

・契約書を精読、共有せずにオリンピックを推進、誘致

契約書は東京都がIOCの下請けとなる内容だったが、この「ファクト」よりも「感動」などの情緒的な面が強調され、開催決定後も「世界一カネのかからない五輪」のはずが制御できず、史上最大級の予算規模になり膨張し続けている。現在も予算全容は把握できていない。

・14年前に問題点を把握しつつ国産ワクチンに未対応

国産ワクチンの重要性と対応が必要なことは厚労省のワーキンググループで認識され、文書（『ワクチン産業ビジョン』2007）で公表されていたが対策は講じられなかった。
mRNAワクチンについても研究はあったものの予算がつけられず、安全保障に関わる重要課題でありながらワクチン後進国となっている。

・90年代に少子化を課題認識しつつも、30年に渡り対策に失敗

1970年代から少子化を予見しながら（『人口白書』）90年代迄対策を講じず、対策も散発的な取り組みに終始。データ、ファクトの収集、分析、提言を怠りその結果、産みたい人が産めない社会となっている。「未婚者の心に寄り添った調査、分析、政策提言ができていなかったのではないか」（山田昌弘2020）、産業構造、人口政策、安全保障をまたぐ戦略を構築できていない。

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

Political Needs Coordinator
Polineco! PAT
ポリネコ!

社会のコミュニケーション性能を向上させるエンジン

主権が国民にありながら、
最高権力を持つ主権者のための
コミュニケーション環境が
社会実装されていません。
この矛盾が①②③④
「民主主義の危機」⑤⑥となって
社会運営を困難にしています。
『ポリネコ！』はこの矛盾を
解消する⑦仕組みです。

①日本型スーパーシティ、スマートシティの「新しい住民参加」を具体化できない

②「国民的議論」を実現できない

③国民-政府間に「信頼」やビジョンをつくり共有する方法がない

④政策形成がブラックボックス化し、最適解納得解を確立することができない

⑤イノベーションより誰からも怒られない縮小均衡を選びがちになる

⑥専制、権威主義の方が良い気がしてしまう

⑦コミュニケーション環境の社会実装を行います

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

Political Needs Coordinator
Polineco! PAT
ポリネコ!

社会のコミュニケーション性能を向上させるエンジン

もっと簡単に述べると、
これまでの新聞報道、テレビ番組放送
アンケート調査をいくら重ねても
“データ、ファクトに基づく意思①を
集約し、個々人を社会につなぎ、②
信頼をつくること”③ができないことが
民主制の後退、国、地域の持続可能性の脆弱化④
「民主主義の危機」⑤を生み出しています。
この下線部を、できるようにするのが
『ポリネコ！』です。

①世論調査では、問われる事柄の背景を知らなくても主観や直感、先入観による回答となる

②記事を読む、番組を視聴するという行為の先はUXは用意されていない

③自分と相手が、価値を共有していることが信頼形成につながりますが、自分以外の人々や組織の考えを知るUXはない

④日本だけでなく、米国や欧州など世界各国共有の課題となっている

⑤その結果、格差の拡大や中長期の合理性戦略性よりも目先の損得を重視してしまう傾向が起きやすくなっている

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

Political Needs Coordinator
Polineco! PAT
ポリネコ!

社会のコミュニケーション性能を向上させるエンジン

『**ポリネコ！**』は、
①**コミュニケーションの構造的弱点**を克服し、
社会や地域の持続的経営に不可欠な
②**データやファクトに基づく信頼**を
③**特許取得の独自プロセス**によって醸成できる
新しいコミュニケーションインフラです。

1. コミュニケーションの構造的弱点とは？
2. データやファクトに基づく信頼が重要で必要である理由
3. 特許取得の独自プロセスとは？

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

1. コミュニケーションの構造的弱点とは？

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点①

気分と主観で意思表示できる世論

-データやファクトを踏まない意思表示が重視される環境

・世論と輿論

メディア各社が頻繁に調査を行う

背景や関連する事象を
知らなくても主観と感覚で意思表示できる

世論

popular
sentiment
民衆感情

調査がない

背景や関連する事象を
知った上で客観性をもって意思表示できる

輿論

public
opinion
熟慮した意見

近代知識人の認識

外道の言論・悪論

天下の公論

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点②

分散・希薄化するメディア接触環境

-マスメディア、ローカルメディアの機能不全
-継続的に考える機会の喪失

・現在のメディア接触環境

テレビ

・視聴率低下
・視聴層の高齢化

新聞

・発行部数減少
・1世帯0.61部

世論調査

・知らなくても
回答できる

ネット

・一部の影響を受け
やすいSNSの構造
・取材力の低さ

地方自治体の広報・公聴

・約80%の市、町で効果検証なし
・実質的な機能不全

©2020 Iwata Takashi _HammerBird

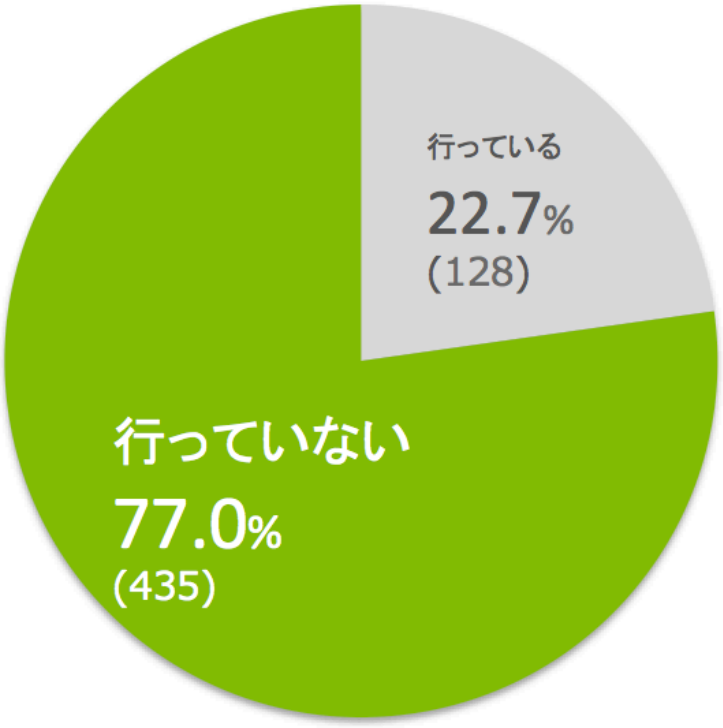
© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

自治体コミュニケーションの課題 -コミュニケーション軽視と機能不全

やりっ放しで、若年層の声を聞かない

約8割の自治体が広報広聴の効果検証をしていない

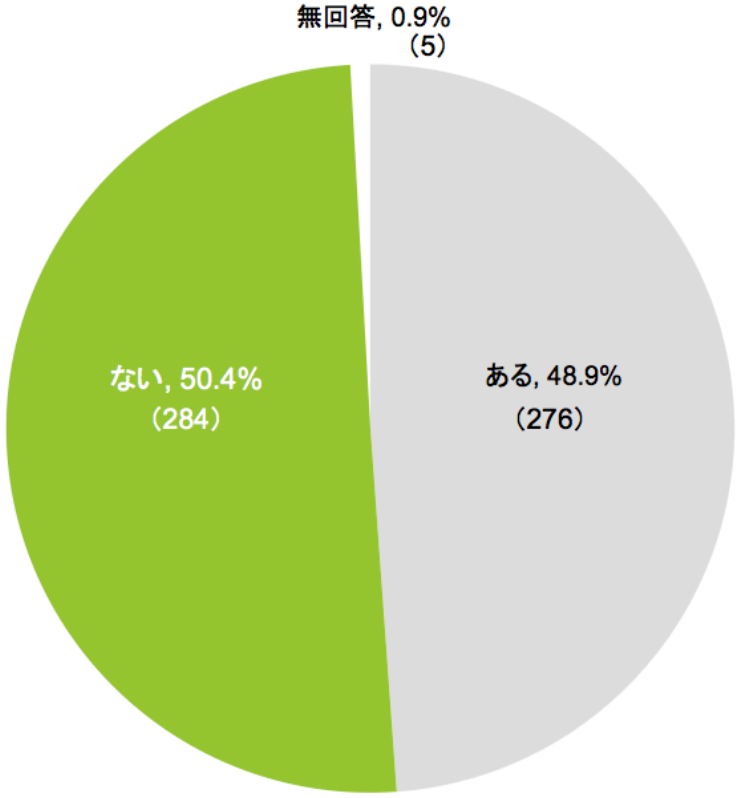
広報・公聴の効果測定を行っていますか。



・効果検証しても非公開であったり、効果検証の内容が課題認識が曖昧なこともあり。

半数以上の自治体が若者の声を聞いていない

選挙権を持たない18歳未満の住民の地域経営、政策形成への参加、意見表出の場はありますか。



・「ある」場合でも、予定調和な機会を以て「ある」としているケースも少なくない。

『自治体コミュニケーションの未来を展望する調査2019』より
デロイトトーマツコンサルティング、岩田崇共同調査

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

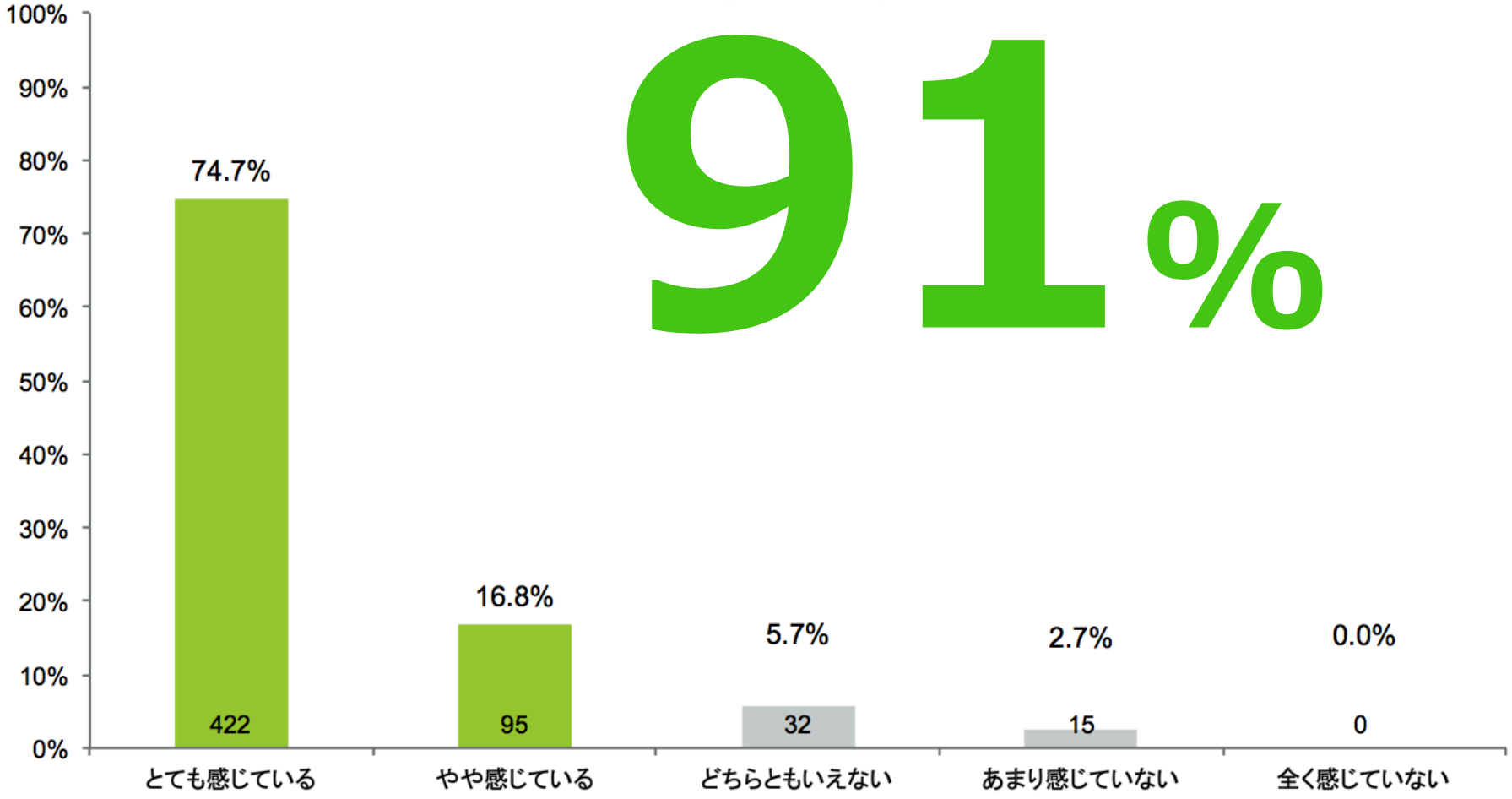
自治体コミュニケーションの課題 -コミュニケーション軽視と機能不全

そして、人口流出（地域衰退）が課題に・・・

人口流出について課題を感じていますか？

約9割超の自治体が人口流出を課題視
人口増の自治体はコミュニケーションの希薄化を課題視

91%



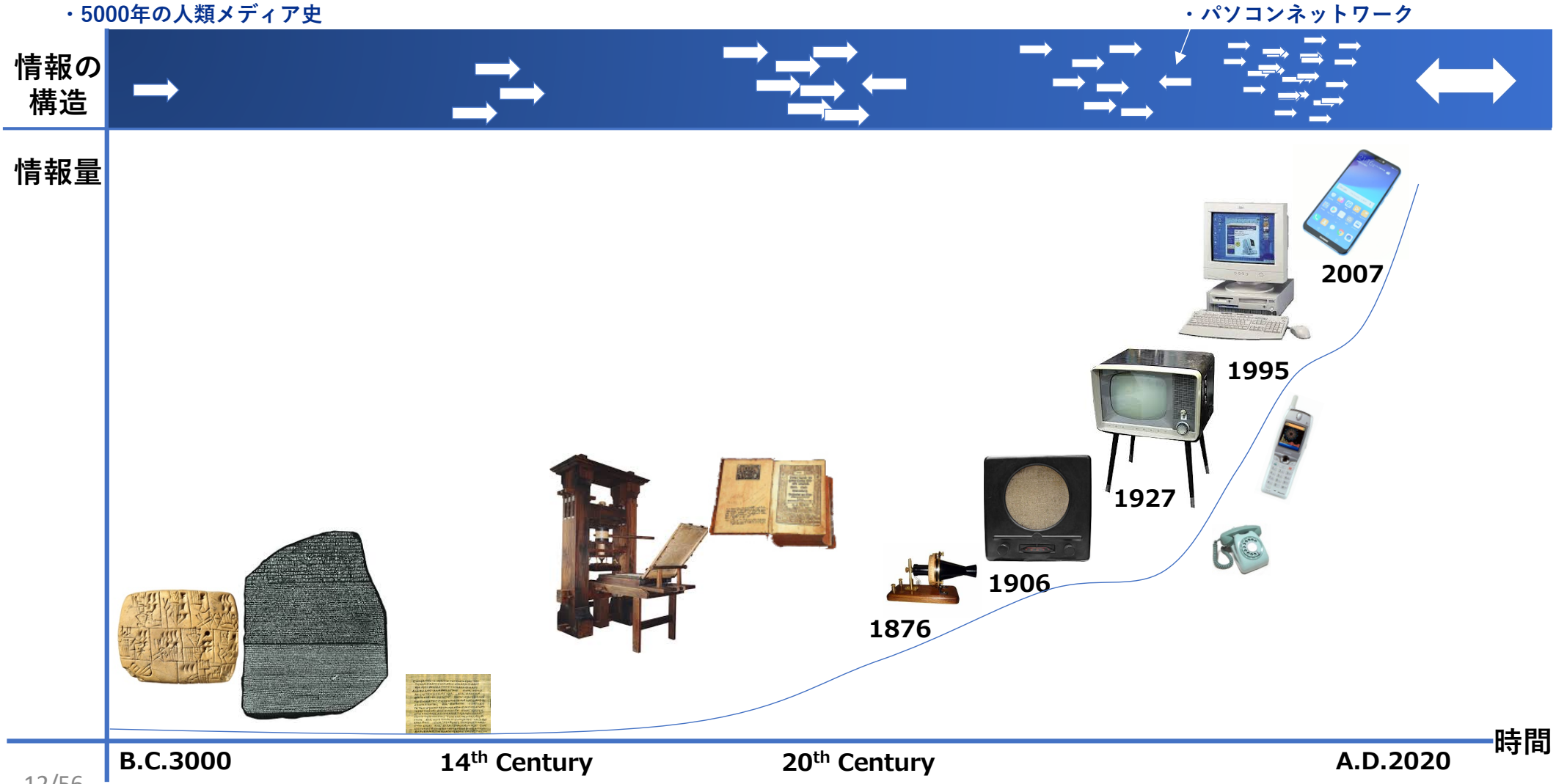
『自治体コミュニケーションの未来を展望する調査2019』より
デロイトトーマツコンサルティング、岩田崇共同調査

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点③

情報の流れが一方通行⇨であること

-フィードバックのないコミュニケーション（やりっぱなし）
-量で誤魔化せる



© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

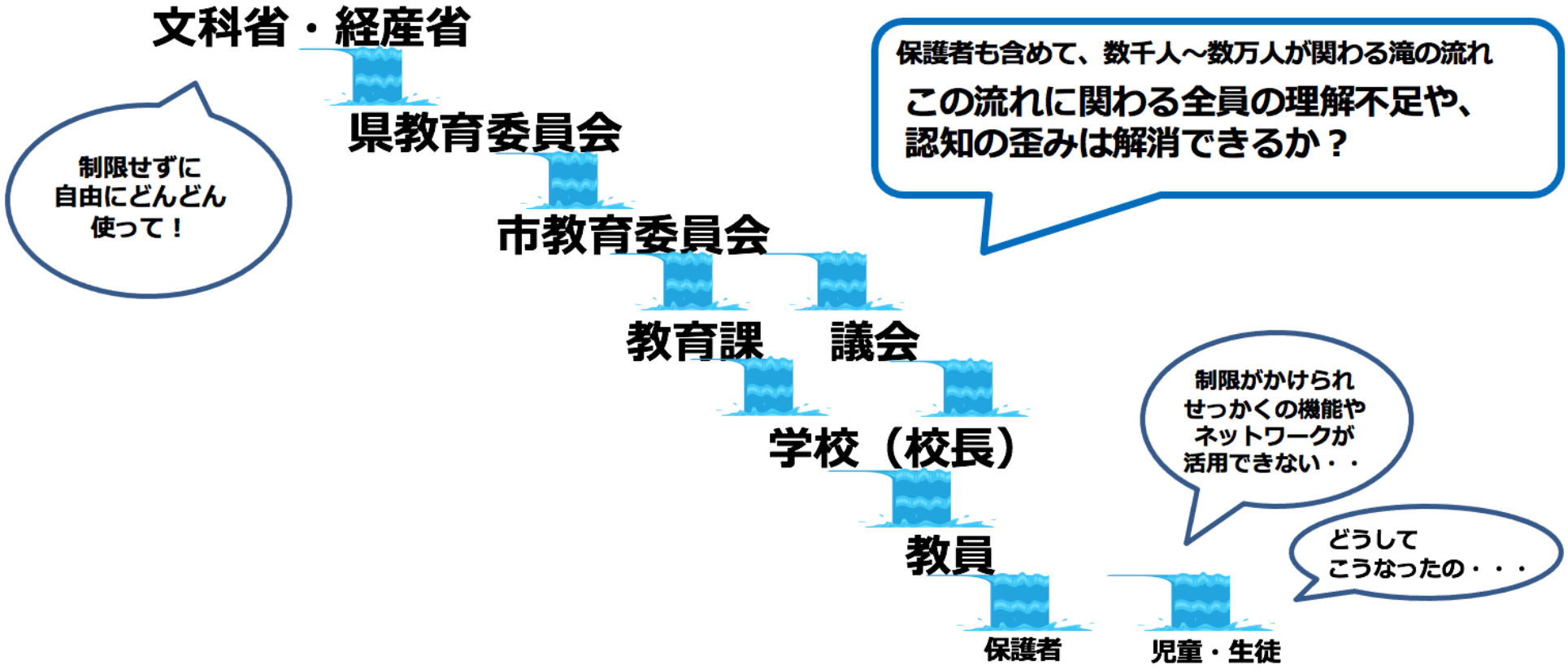
現代のコミュニケーション構造に起因する弱点④

『信頼』を構築できない滝型構造

カスケード

-認知バイアスと無責任を生み出す合理的な構造
-立場の上下が重視されてしまう

・行政の滝型構造（教育、GIGAスクールの場合）



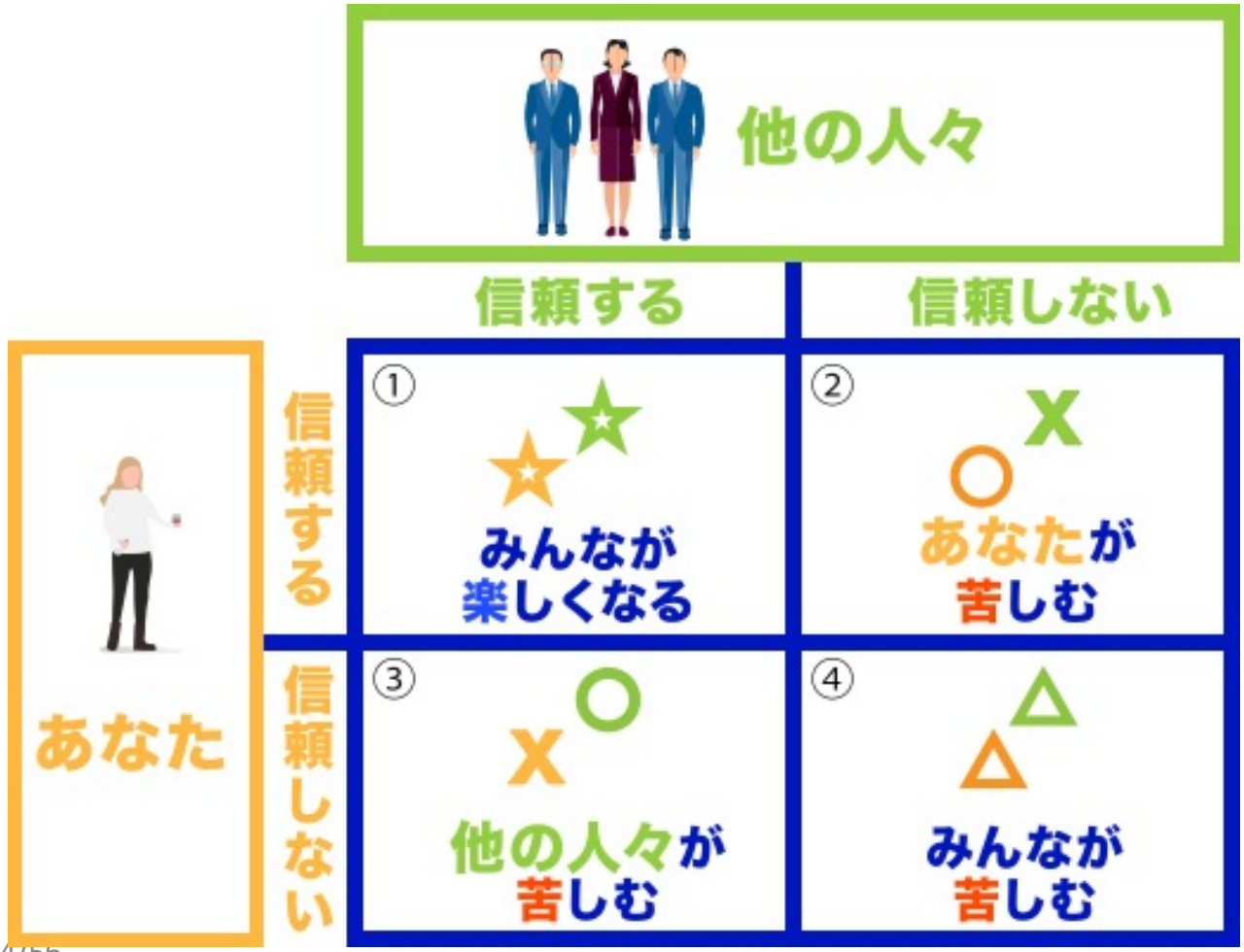
© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点⑤

『信頼』を構築できない囚人のジレンマ構造

-協調のための手段、お互いの考えを知る方法がない
-自分が損をしないために、合理的に④を選択する

・囚人のジレンマ図



①：協調して「最適解」を選ぶ

②③：正直者がバカを見る
：はしごを外される

④：「苦しくなること」を
合理的に選ぶ

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点⑥

言葉が通じない

-同じ言葉、単語でも捉えられ方は異なる-認知バイアス
-捉えられ方を把握し、調整する仕組みがない

・通じているようで通じない私たち

たとえば

GIGAスクール

Global and Innovation Gateway for All

個別最適な学びの環境の実現

政策立案、発信者

通信量！
スマホ学割
PCやiPadのこと？

教員、保護者、児童・生徒
行政職員、メディア関係者

＊教員の方でもGIGAの意味を知らない
ことは珍しくありません。

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点⑦

弥縫策が繰り返される悪循環構造

パッチワーク

国権の最高機関

-どんな知見、報道が現れても社会・国会・議会に共有されない
-全体より、一部の支持を集めることが合理的（無関心層の発生）
-「芯」＝コンセプト、ビジョンのなく、未来に進めない環境

・2010年代以降のメディアコミュニケーションフロー

1 クレイム申し立て ⇨ 2 メディア報道 ⇨ 3 人々の反応 ⇨ 4 対策・政策の形成 ⇨ 5 対策・政策の実施 ⇨ 6 対策・政策の影響

メディア報道：データや事実に基づかないことも
- 新聞
- ワイドショー（TV）
- ニュース番組（TV）
- 雑誌
- ネットニュース
- ラジオ
- ウェブサイト

人々の反応：主観や感情 認知バイアスに基づく反応
- 新聞を読んだ
- ワイドショーを視た
- ニュースを視た
- 雑誌を読んだ
- ネットニュースを見た
- ラジオで聞いた
- 動画で見た
- SNS 投稿 / リアクション
- 商業的フェイクニュース

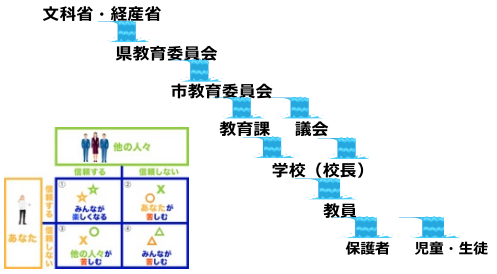
媒体によって（質）がバラバラ　受け取り方もバラバラ

対策・政策の形成：大衆の感情

輿論（EBPM）ではなく**世論**への（主観・感情）対応

対策・政策の実施：現実との齟齬

滝型構造の限界



問題発生 ⇨ 問題だ！『提言』『スクープ』 ⇨

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

現代のコミュニケーション構造に起因する７つの弱点

まとめ

①

主観、感情に基づく意思が世論、民意

②

継続的に考える機会が（ほぼ）ない

③

フィードバックのない情報の流れ

④

上下関係、認知バイアスに影響される滝型構造

⑤

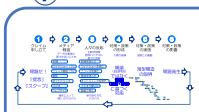
誰がどんな考えかわからない

⑥

言葉の捉え方を把握し調整できない

認知バイアスの放置

⑦



パッチワークが繰り返される悪循環

現代のコミュニケーションには

データ・ファクトに基づき意思を示し合い議論を行う機能が不足している

熱心な取材や紙面、番組、webコンテンツを重ねても不足した機能を補えない

『信頼』をつくり共有することができない
-社会の劣化-

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

まとめ

戦争に進んだ80年前と変わらずデータとファクトを踏まえた

-国民的議論、地域を挙げた議論を行う手段を持っていない。

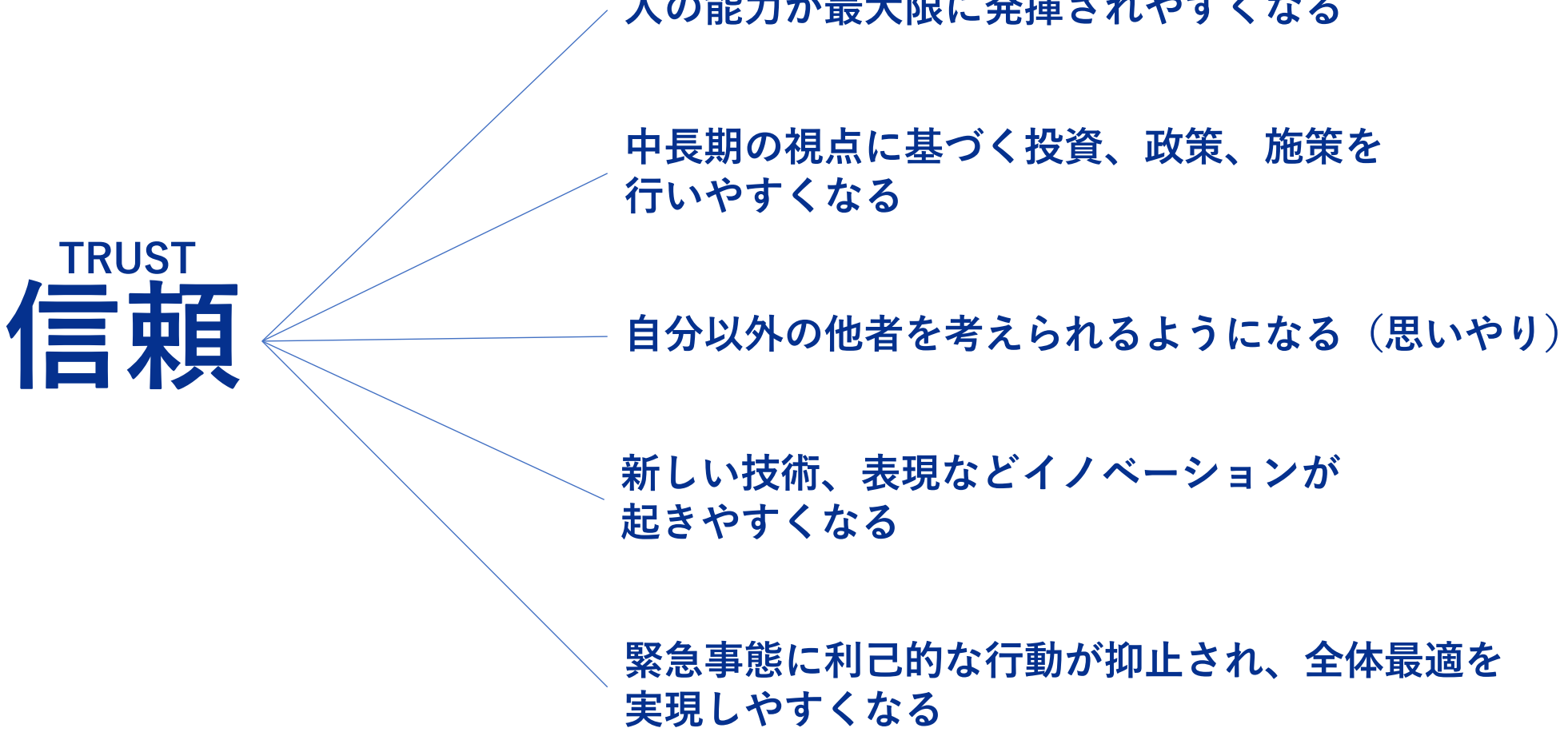
© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

2. データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

信頼がなぜ重要か？



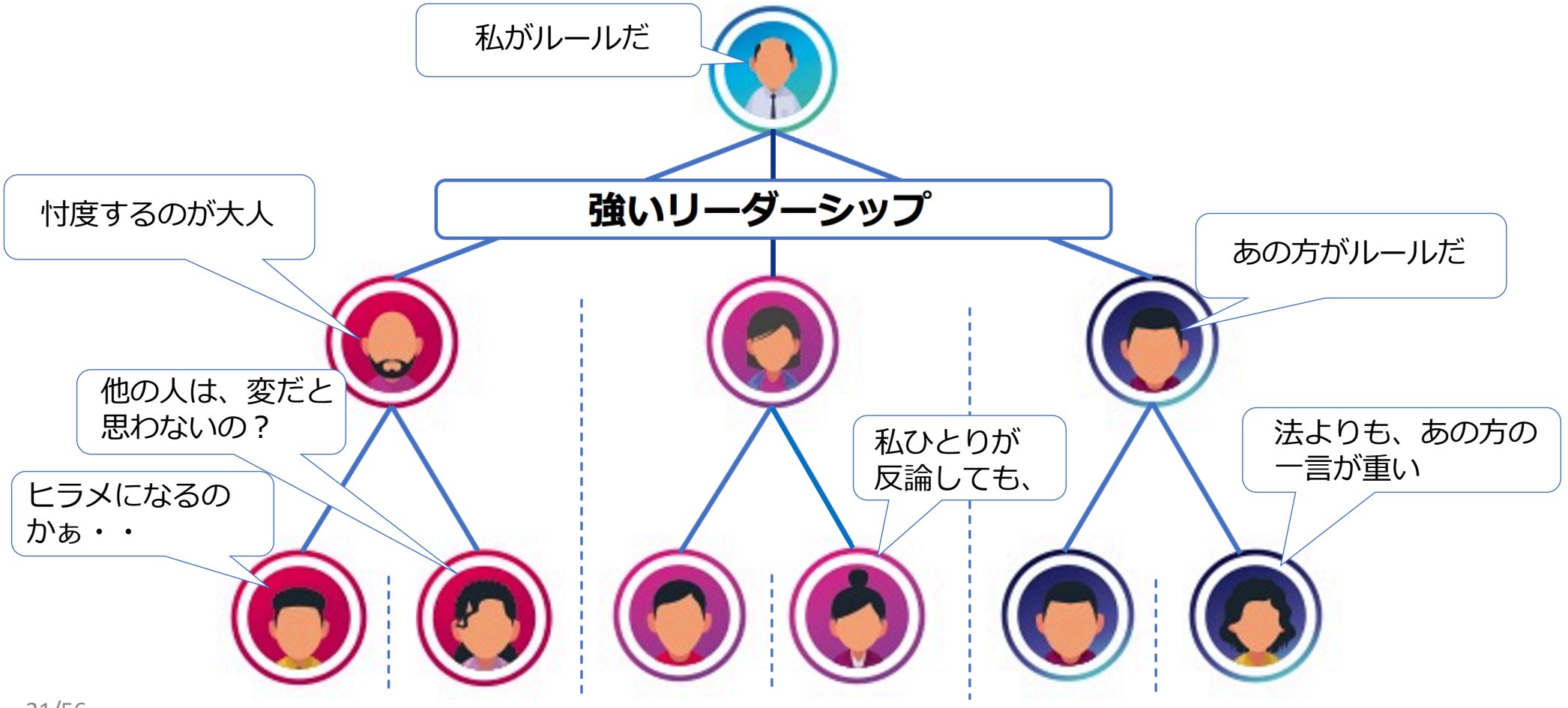
© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

属人的統治の限界

リーダーシップ

強いリーダーシップ（カリスマ）は権力の集中による強力なマネジメントが可能ですが組織コミュニティ内に信頼関係が生まれにくく、忖度を生み、人々の思考を停滞させ、イノベーションも阻害されるリスクがあります。



© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

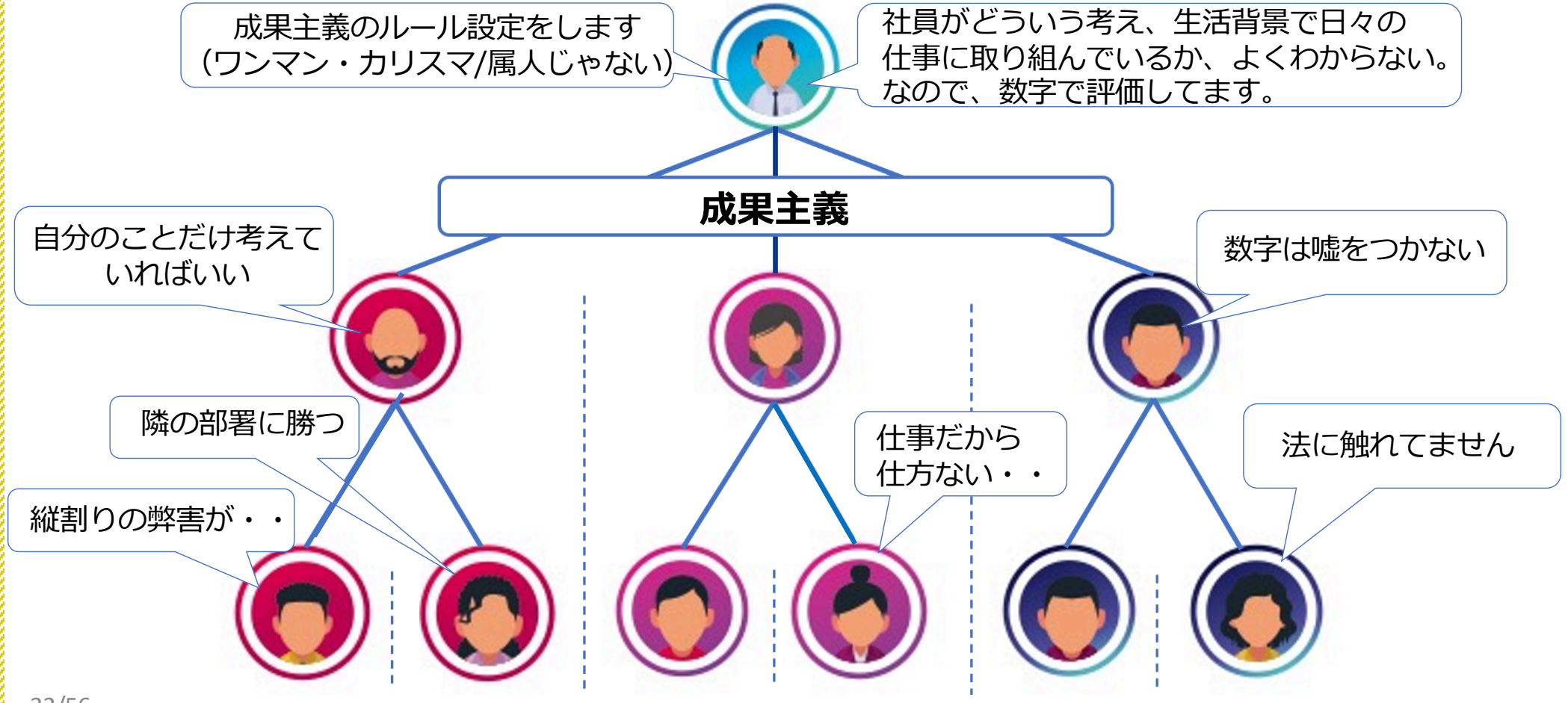
データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

数値やデータによる統治の限界

成果主義

一方、数値やデータを重視するマネジメントでは、属人的経営の弊害はなくなるものの目先の数値やデータに人間が従属することで信頼関係が生まれにくく、人々の思考停止、イノベーション阻害のリスクが生じます。

（数値の基準を決めるプロセスに新たな属人的弊害が生じることもあります。）



© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

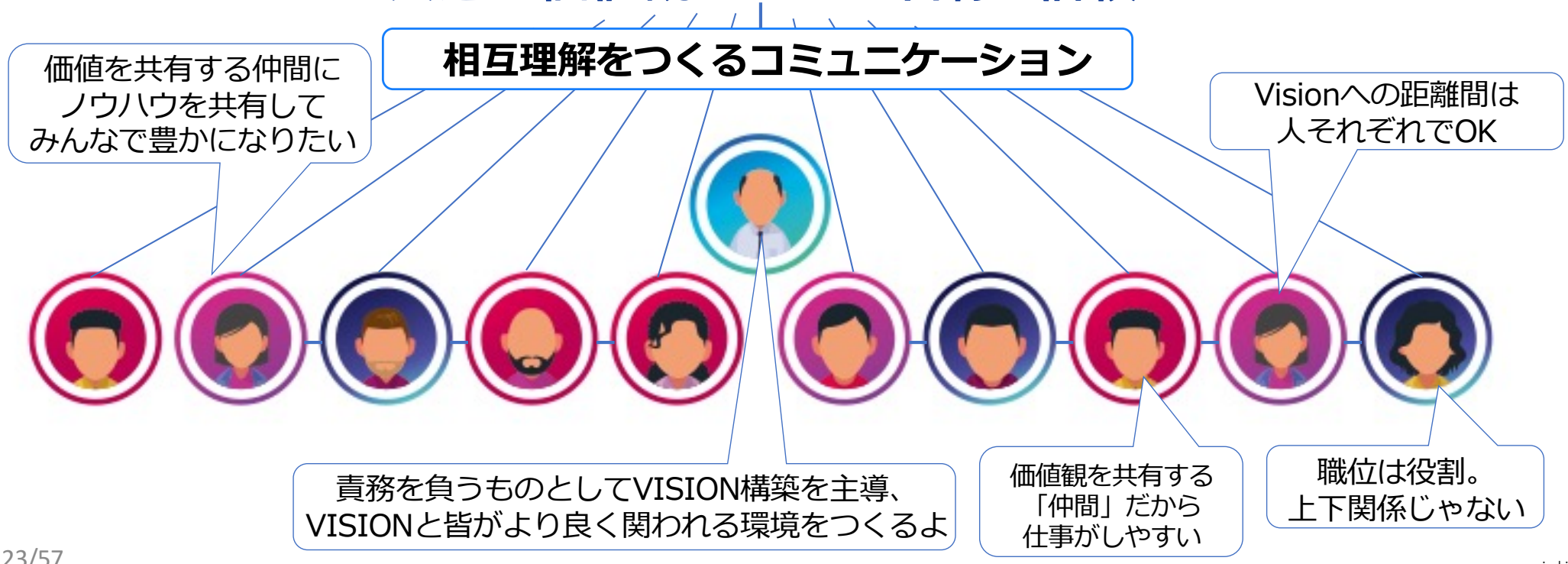
データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

属人的統治、数値やデータ経営の統治を超える信頼共有型統治-VISOIN DRIVE-

データやファクトを踏まえながらどう暮らしたいか？という意思表示に基づき価値観の共有、把握ができると『信頼』に基づく社会、コミュニティのガバナンスが実現できます。
信頼を基礎として、思考の活性化、イノベーションが促されます。
（同時に属人的経営や成果主義の弊害を最小化）

VISOIN

共通の価値観に基づく目標＝信頼



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

価値観の共有による信頼/VISIONはあった？

焼け野原という共通体験と、豊かになるという共通ビジョンが（議論せずとも）「信頼」として機能した

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

信頼の重要性

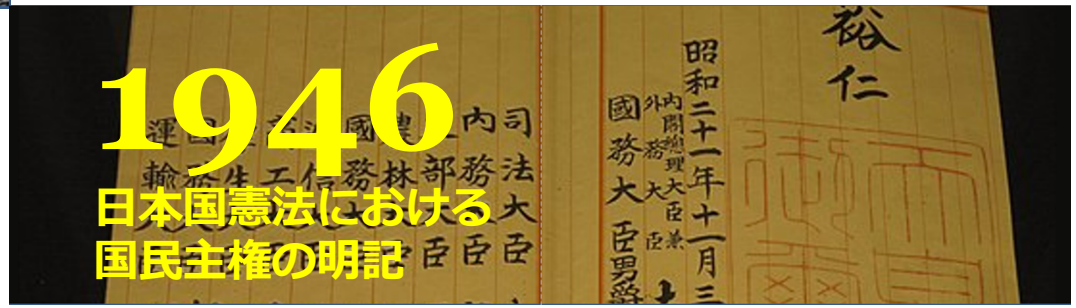
「信頼」を形成、運用できずに、失敗を重ねてきた歴史

基本的人権、国民主権という発明

日本における普通選挙のある社会運営の開始

社会運営の失敗、破綻

国民主権が明記された日本の誕生



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

いままで信頼をつくれなかった理由

分散、拡大した主権を繋ぐ仕組みのデザインが必要だが、対応する存在、機関がない
この仕組みのデザインがないと・・・民主制であっても属人的、忖度の権威主義に

主権
１名・独占所有

国民主権
数千万から億人・分散所有

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

いままで信頼をつくれなかった理由

-同じ国、同じ言語に暮らしていても「壁」が各所に存在する。
-「壁」を超えること＝信頼をつくる仕組みのデザイン

社会にヴィジョンが共有されない
政治-国民間で『信頼』が育まれない

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

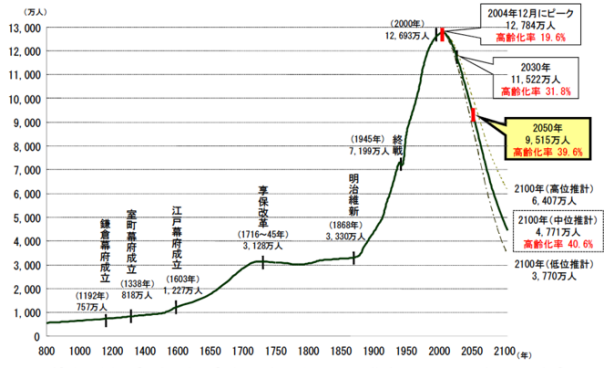
データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

信頼が最も必要な歴史的局面-2021年からの数年-

-精緻な社会運営には『信頼』の確立と共有が極めて重要
-しかし、『信頼』をつくる手段は脆弱な状態

日本社会の状況

- 有史以来初めての急激な人口減少局面への対応
- データやファクトに基づく精緻な議論と信頼できる最適解の共有が必要



（出典）総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」（1974年）をもとに、国土交通省国土計画局作成

政府が目指す社会

- 経済発展と社会課題解決の両立する人間中心の社会

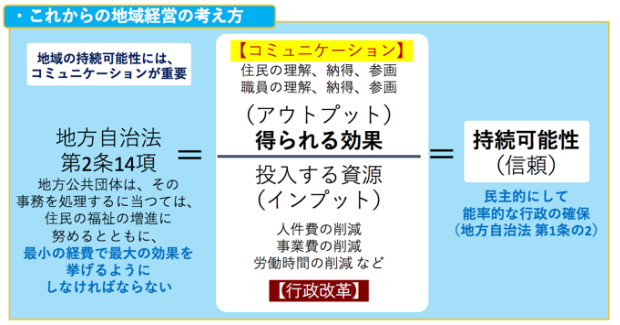
Society 5.0

DX対応

デジタルトランスフォーメーション

地方に求められる地域経営

- 削る＝合理化、改革の限界
- 持続できる地域のためには、住民と行政との「信頼」が不可欠
- 住民との信頼をもとに未来に向けた投資的取り組みが可能に



GIGAスクール

（Global and Innovation Gateway for All）×個別最適な学び×持続可能な社会の創り手をつくる教育体制（学習指導要綱）

DFFT（Data Free Flow with Trust（信頼ある自由なデータ流通））

SDGs（誰ひとり取り残さない社会を目指すコンセプト群）

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

DXの基礎は『信頼』

デジタル社会

DX=個を起点とする生活環境への変化(トランスフォーメーション)

DXの本質的な意義と価値は、個を起点にする環境構築ができるほどにICTが社会に浸透したことによる
基本的人権の社会実装にあります。事務や手続きの効率化、迅速化はその表層パートであり、自治体DXのコアは、
コミュニケーションの最適化による住民間、住民-行政間の『信頼』（TRUST）の構築にあります。

	いままで	Transformation	これから
	外部環境に個が合わせる		個を起点に外部環境を構築できる
社会の命題	経済成長と経済合理性 （効率・生産性）	個人レベルへのITの浸透による社会のシフト DX デジタルトランスフォーメーション	持続可能性と社会善/ソーシャルグッド （創造性）
組織の意義	生産性を追求しリソースを管理		多様な個人の発見・創造を尊重し、 価値化する
個人の意義	組織のために効率を重視し働く	（個別最適な学び） GIGAスクール	社会のために自分が楽しく幸せに暮らす
関係性	組織の目的のために個人が存在		個人のための機能する組織
アウトプットのための与件と能力	・組織からの条件、指示に応える ・組織、社会に従う ・過去の成功、前例を重視	（DXによる個人起点の社会） Society 5.0	・自らの存在意義を定義する ・自らの存在意義を組織・社会に示す ・レビューとイノベーションとコラボ
課題	資本主義の限界	（DXによるウイルス対応型社会） Post Covid-19	個人と組織・社会の秩序の両立 （コーディネーション）

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

資本主義システムからの『信頼』の重要性

-富の偏在による格差が自然と起こることによるシステムの限界
-アダム・スミスも人と人の共感を重視していた（但し、神の手を過信してしまっていた）
-市場の失敗を乗り越えるための公共の介入には信頼の裏付けが有効

$$r > g$$

Return of capital
資本収益率
↓
投資の運用益収入

Growth rate of economy
経済成長率
↓
労働収入

『21世紀の資本』Thomas piketty 2014

経済成長率が下がると格差が広がり、社会が不安定に、
不安定状態を回避する調整システム/コミュニケーションによる信頼構築が必要。
しかし、対応できる方法はない

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

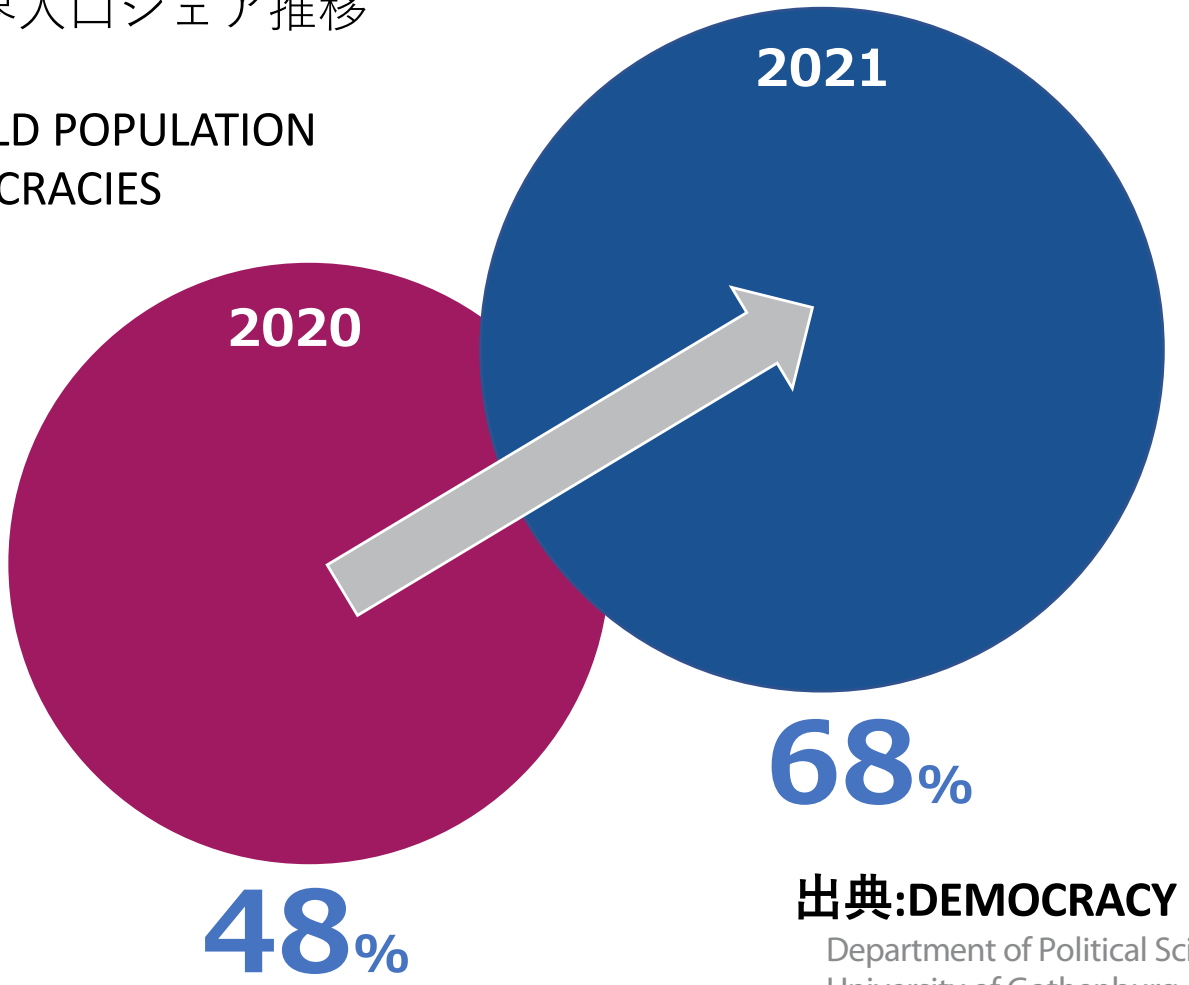
データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

地政学的観点からの『信頼』の重要性

-専制体制の社会、そこに暮らす人が世界全体では増えている
-専制体制は、民主制社会がうまく行っていないことを指摘して優位性を誇る

専制体制の世界人口シェア推移

SHARE OF WORLD POPULATION
LIVING IN AUTOCRACIES



出典:DEMOCRACY REPORT 2021
Department of Political Science
University of Gothenburg
https://www.democracywithoutborders.org/

©IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

まとめ

-Building “TRUST”-

『信頼』づくりは、
日本の命運を左右する。

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

3. 特許取得の独自プロセスとは？

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

いまのコミュニケーションの弱点を克服する

①

データ・ファクトを踏まえた意思=輿論を調査

②

継続的に考える機会

③

フィードバックのある情報の流れ

④

上下関係、認知バイアスに対応する水平構造

⑤

誰がどんな考えかわかる

⑥

言葉の捉え方を把握し調整できる

認知バイアスの把握・調整

⑦

パッチワークが繰り返される悪循環の外部に

データ・ファクトに基づき意思を示し合い議論を行う仕組み

熱心な取材や紙面制作、
番組制作、webコンテンツ開発と
ポリネコ！が連携すれば新しい価値に

Political Needs Coordinator
Polineco! PAT
ポリネコ!

『信頼』をつくり共有することができる

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

信頼構築モデル

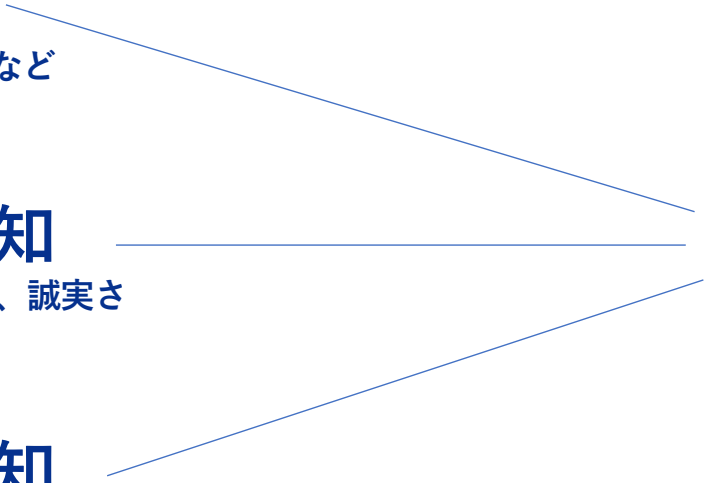
-信頼を規定する成分から考える
-最も有効なのは・・・
-SVSモデルによる信頼形成を実現できるUX、メディアはあるか？　-無いからつくる

【信頼を規定する成分】

1.能力認知
有能、専門技術、権威など
（スゴそう）

2.動機づけ認知
努力している、熱心だ、誠実さ

3.価値共有認知
同じ目線に立っている、気持ちを共有している
何を重視するか一致しているか
どのような結果を選好しているかが同じか



『信頼』

主要価値類似性(SVS)モデル（Earle & Cvetkovich, 1995）

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

『ポリネコ！』の仕組み

立場の上下なく、国民と政治家や有識者が一緒に水平な関係で、社会や地域の課題に関わるデータやファクトを知り、学び、考え、意思表示し合うことで信頼を構築しながら繋がり、フィードバックを俯瞰しながら最適解、納得解を見出し、共有する、特許に基づくコミュニケーション。

SVSモデルによるTRUST構築

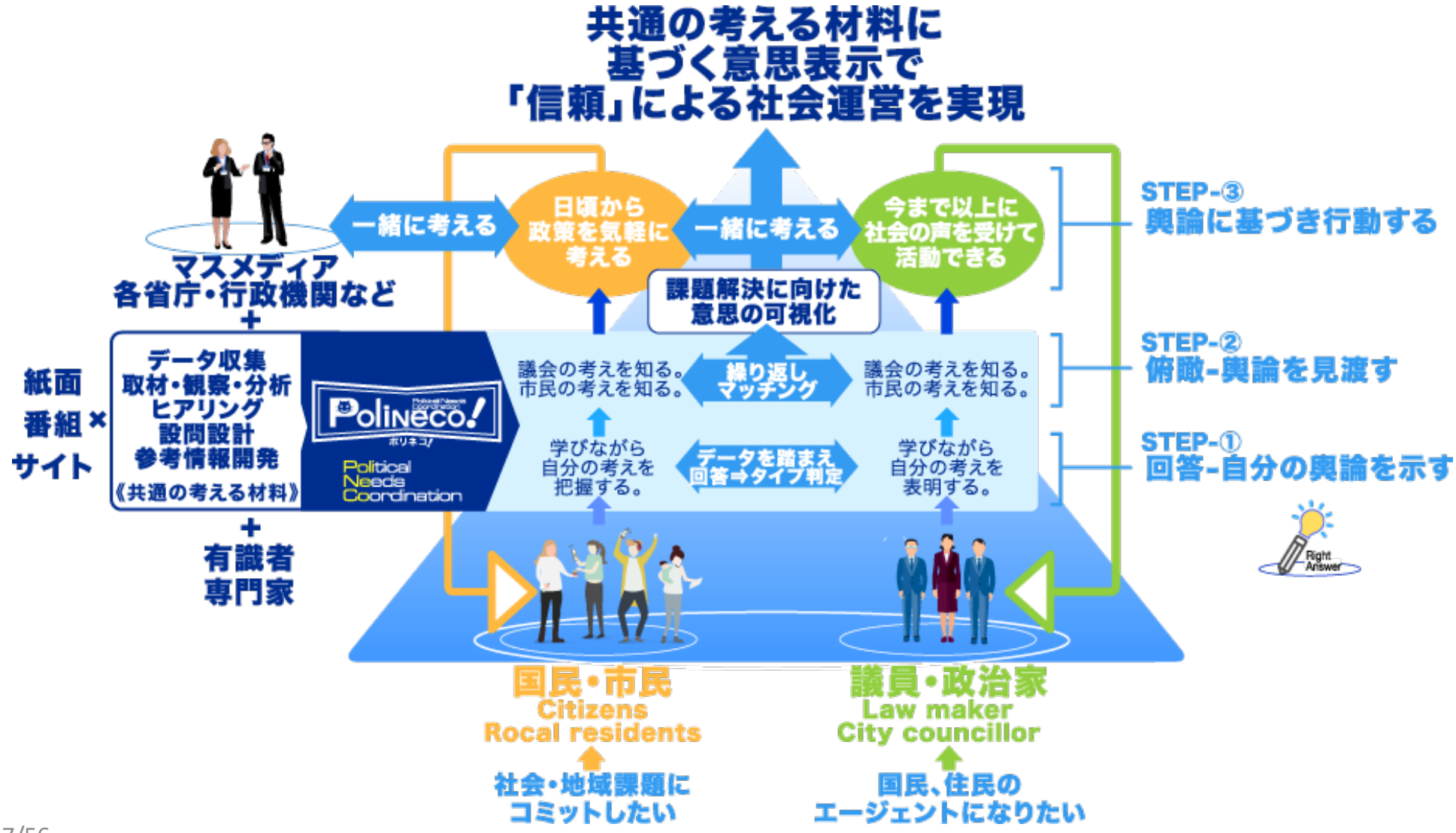
SDM（Shared Decision Making）モデル

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

国民主権に対応するコミュニケーションのデザイン

-壁で遮られているそれぞれの立場の人々を１つのコミュニケーション上に



© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

風通しをよくする

-各所の「壁」に穴をあけて風通しをよくする。
-「壁」を超えること＝信頼をつくる仕組みのデザイン
-滝型から水平型構造のコミュニケーションへのシフト

Polineco! Political Needs Coordinator PAT ポリネコ!

社会にヴィジョンが共有される
政治-国民間で『信頼』が育まれる

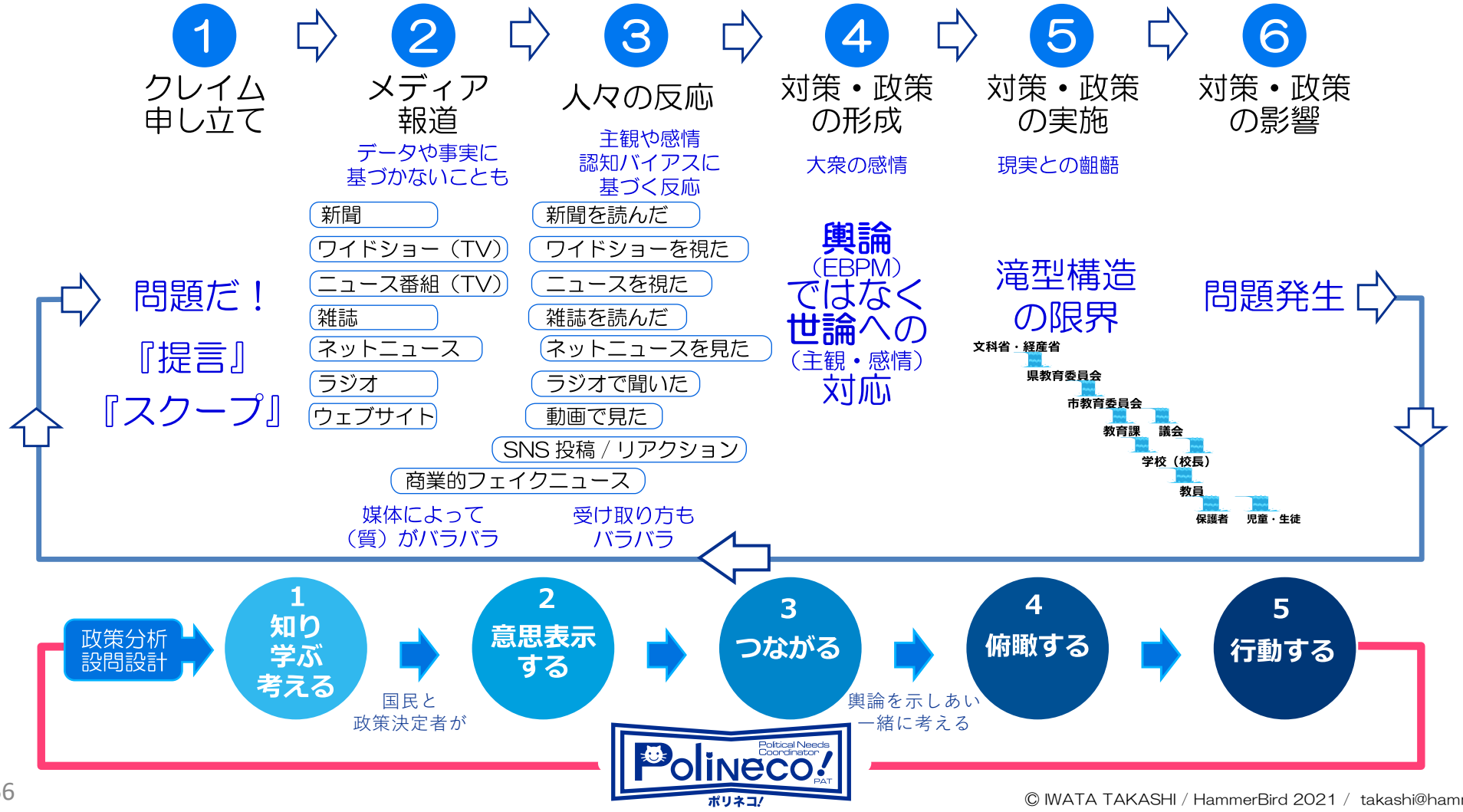
© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスで実現すること

現在の構造に別レイヤー・バイパスを設ける

-政策決定者（国会議員、地域の議員）とつながるコミュニケーション
-『信頼』をつくるガバメント・リーチの実現
-全体にとっての最適解、納得解を考える手段と動機の提供

・2021年以降に求められるバイパス付きメディアコミュニケーションフロー



© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

記事や動画を見て、知る、学ぶ

・記事を読む、動画を視聴する

①

②

③

④

＊社会や地域に関わる論考や、トピックスを記事や動画で紹介
＊読んだり、視たりするなかで、上記のネコのマークを押すと、
回答参加画面に移動

＊回答参加画面

＊各画面は開発中のイメージ

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

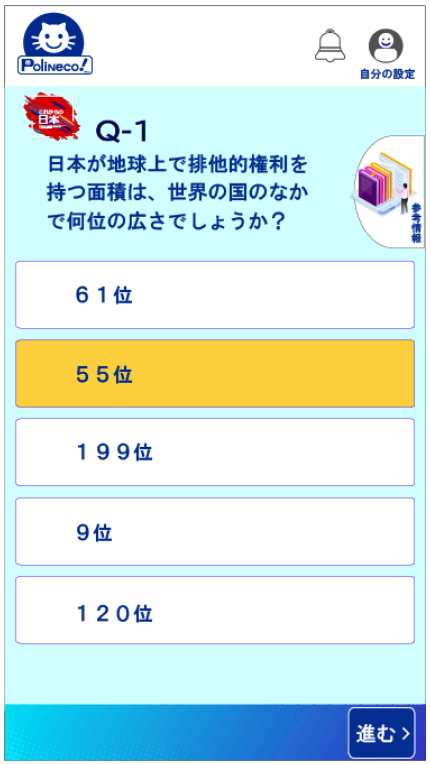
特許取得の独自プロセスとは？

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

⑤

⑥



⑦

・正解のある設問

＊設問は「正解のある設問」と「正解のない設問」の２種類

＊「正解のある設問」は学習プロセスを通じて、認知の把握と調整を行います

＊GIGAスクールの意味や、ウイルスの特徴（生物ではないなど）さまざまな事象の
知っているつもりで知らないを解きほぐします

＊各画面は開発中のイメージ

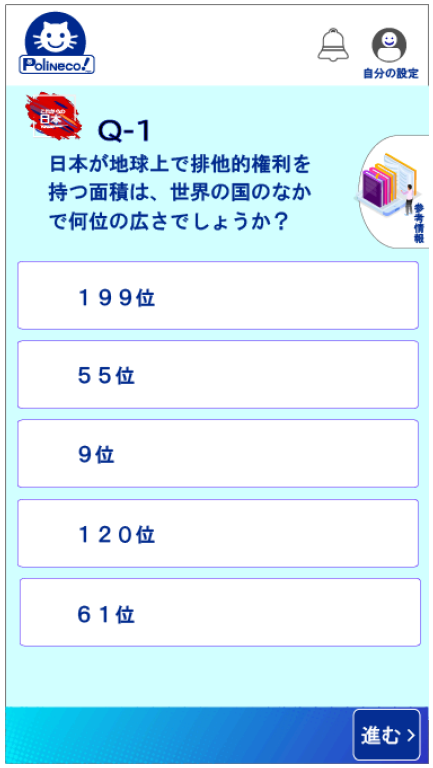
© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

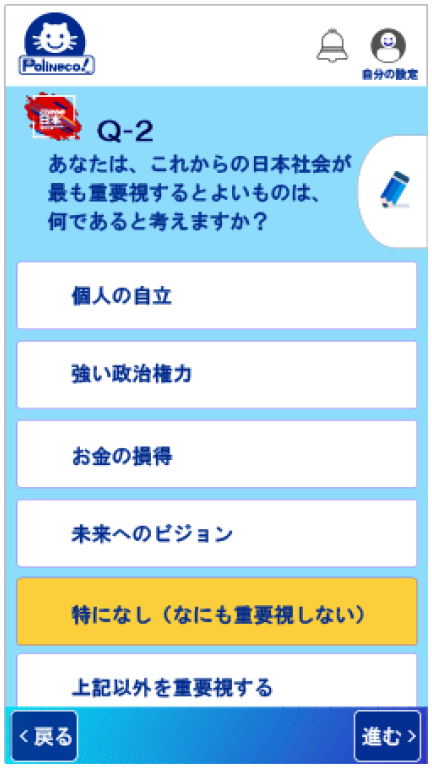
回答を通じて、知る、学び、考える

⑧



＊学習プロセスを経て、「55位」ではない選択ができるようになります。

⑨

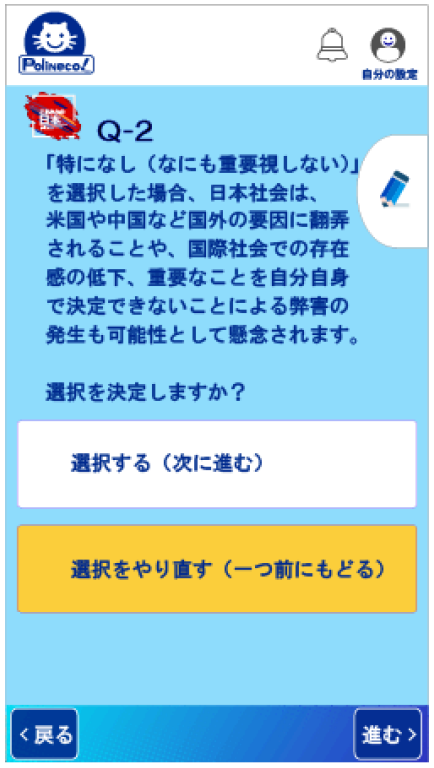


・正解のない設問

＊データやファクトを踏まえた意思表示を行います

＊選択から予期されるリスクなども示し、考えた上での意思表示が行えます

⑩



＊各画面は開発中のイメージ

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

ステップ1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

⑪

- 正誤に応じた再回答（おさらい）
- 誤解、認知不足がどこにあるかの把握
- 理解度ごとの回答者クラスター
- 回答クラスターごとの回答傾向把握
- 傾向に応じた追加設問の設定

＊地域や社会の課題に係る理解度を、「正解のある設問」の正答率から表示

＊おさらい機能で、理解度を高めることができます

＊各画面は開発中のイメージ

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

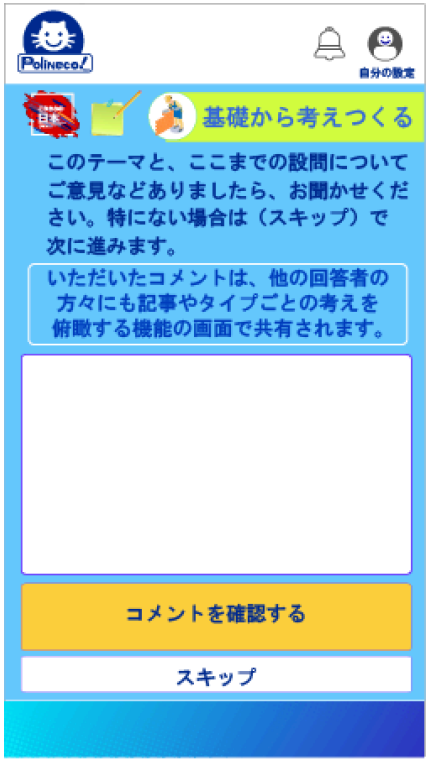
特許取得の独自プロセスとは？

ステップ 2
意思表示する

回答を通じて、意思表示する

⑫

⑬



- 理解度×「考えタイプ」表示
- 言葉、文章の投稿が可能

⑭

＊回答者の考えタイプを、地域や社会の課題への考え方、向き合い方を「正解のない設問」への回答に基づき表示

＊ポジティブ面、ネガティブ面の両方を示し、再回答でもできるようにします

＊各画面は開発中のイメージ

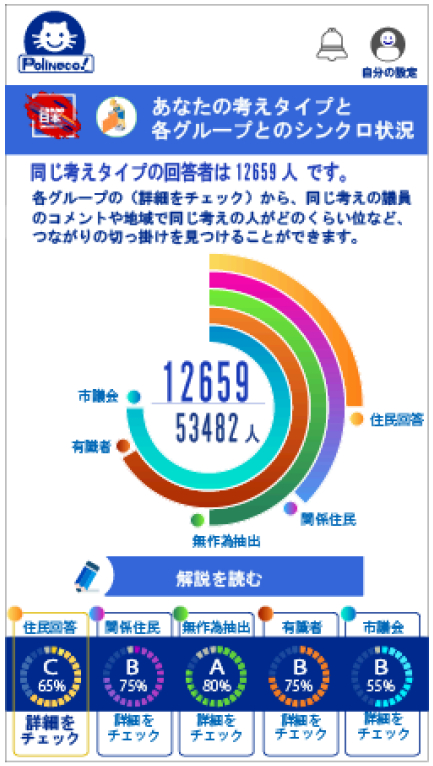
© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

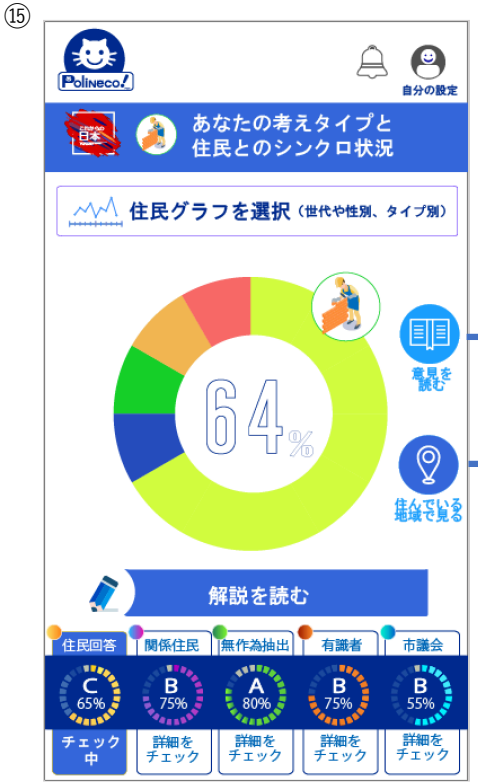
ステップ 3
つながる

他の回答者とつながる

⑭



⑮



⑲

⑯

⑯

・地域コミュニティ
町内会単位など

＊自分の考えタイプと同じ考えの人が、各回答者のグループにどの位いるかをグラフで表示

＊”詳細をチェック”から、同じ考えの人の割合、他の考えの人の割合をグラフで表示

＊グラフはリアルタイムに変化

＊各画面は開発中のイメージ

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

ステップ 3
つながる

他の回答者とつながる

⑰

＊議会とのシンクロ状況を表示

⑱

＊自分と同じ考えの議員及びその回答背景を読むことができます
＊同じ考え以外にも、自分とは異なる各考えタイプの議員や、政党、会派別の傾向、
シンクロ状況を確認できます。

＊各画面は開発中のイメージ

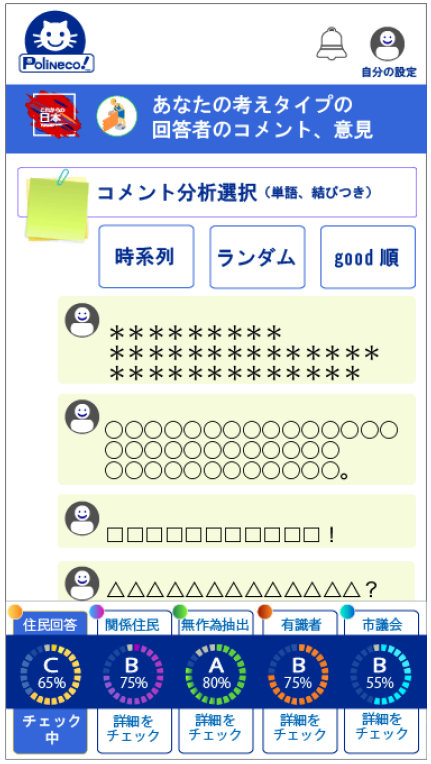
© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

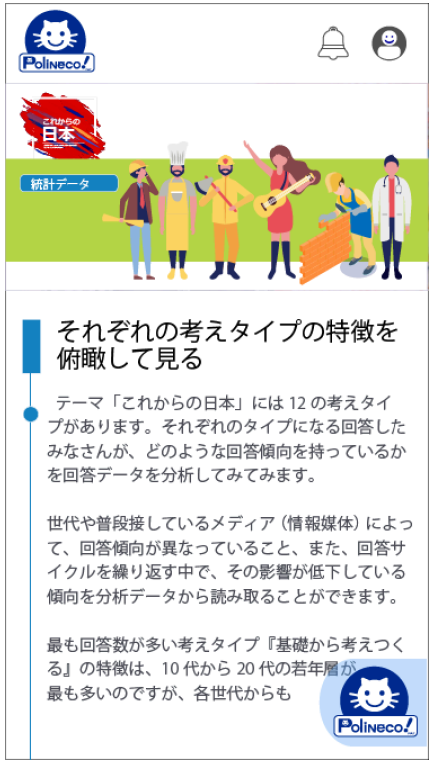
ステップ 4
俯瞰する

回答の背景、傾向を俯瞰する

⑲



⑳



・考えタイプのそれぞれの
コメント、意見及びその集約分析
を読むことで回答を俯瞰

＊画面⑬に入力された考えタイプの背景など、回答者のコメントを確認することができます

＊テキストマイニングを行い、言葉の関わり、傾向の表示も可能

＊各画面は開発中のイメージ

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

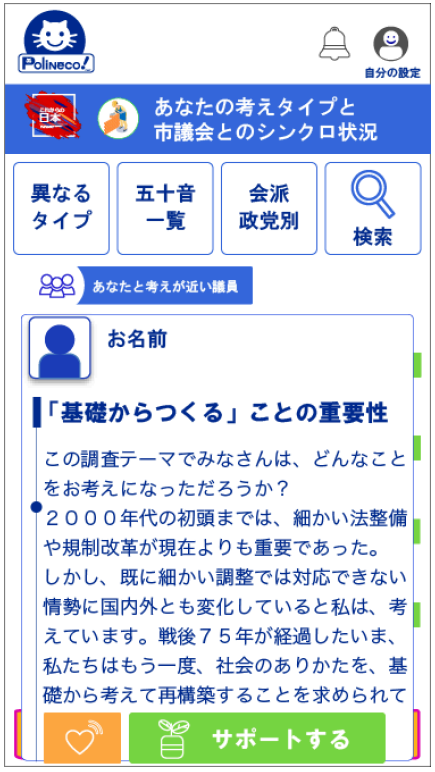
特許取得の独自プロセスとは？

ステップ 5
行動する

回答を経て、行動する

㉑

㉒



- 課題別に議員とつながる
- コメントの投げかけなど
- 読んで、サポート
- 読まれ方の分析から改善へ

＊考えタイプが同じ人とは、価値共有認知でつながっている状態になります

＊この繋がりから、議員との交流、サポートを行えるようになります

＊議員にとっても国民（小中高生も含め）にとっても、政策ごとの信頼関係を構築することができるようになります。

＊各画面は開発中のイメージ

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

ステップ 5
行動する

回答を経て、行動する

調査テーマについての
意思形成、合意形成を実現

⑬

⑭

メール配信
プッシュ通知

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

＊回答タイプや属性
（学生のみ、子育て世帯のみなど）に
応じたメール送信

- 回答サイクルの運用
- 考えタイプごとに設問を配信も

＊回答によるインセンティブを提供できます（地域の場合は商工課などと連携）
＊また、回答参加を経て、無回答の議員への回答リクエスト、友人、知人への
招待発行を行えます。

＊回答は一回で終わりではありません
＊回答サイクルが動き出し、考えタイプごとの設問配信、回答収集
などを経て最適解、納得解の形成をすすめます

＊各画面は開発中のイメージ

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスとは？

回答サイクルによる意思形成、成長する議論の基礎

-フィードバックのある、やりっぱなしにしないコミュニケーションサイクル
-社会のヴィジョン構築にも対応できる継続的コミュニケーション
-運営者（コントローラー）が明確であることによる、訂正の確実性

・『ポリネコ！』５つのステップ

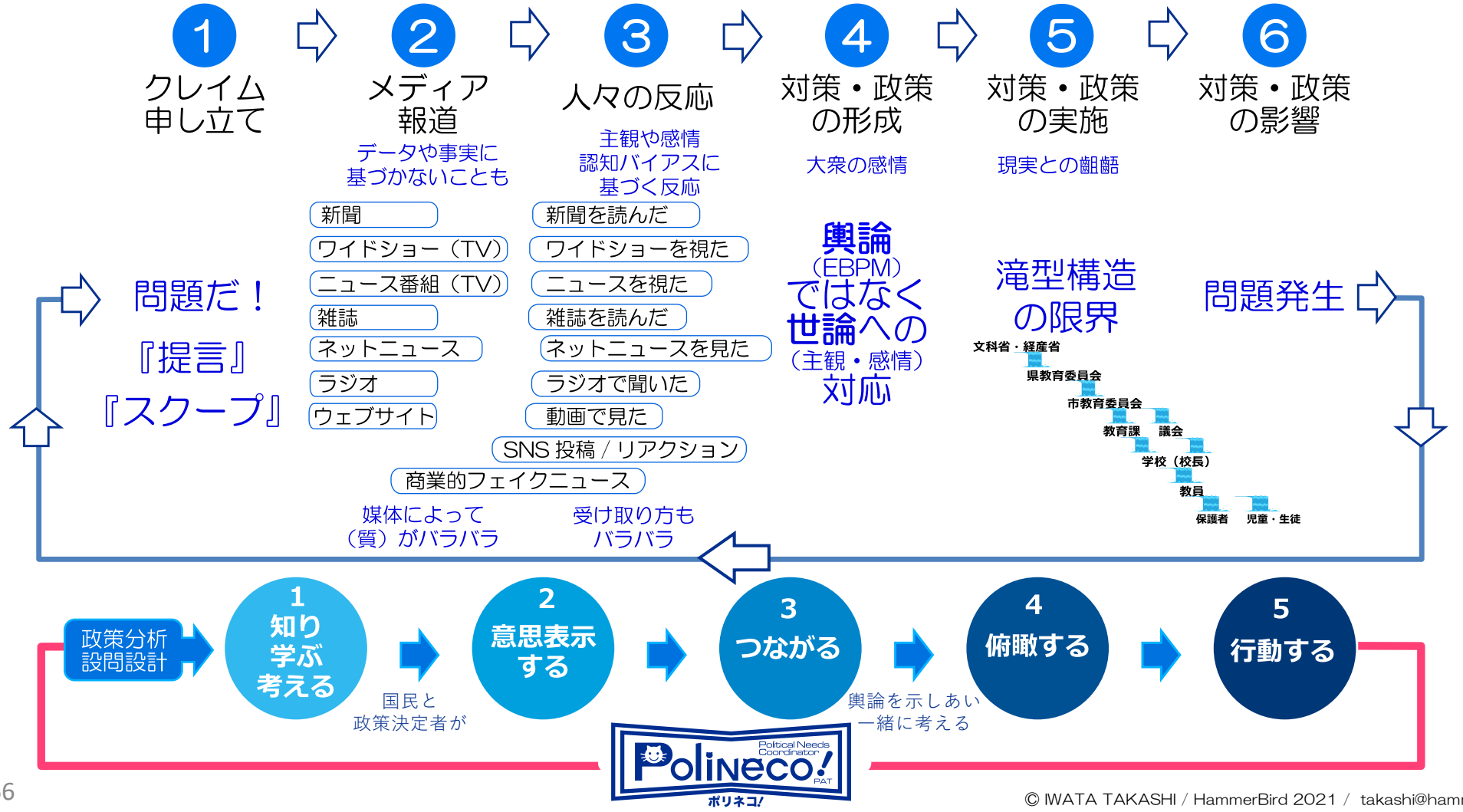
© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスで実現すること

現在の構造に別レイヤー・バイパスを設ける

-政策決定者（国会議員・地域の議員と国民）とつながるコミュニケーション
-『信頼』をつくるガバメント・リーチの実現
-全体にとっての最適解、納得解を考える手段と動機の提供

・2021年以降の求められるバイパス付きメディアコミュニケーションフロー

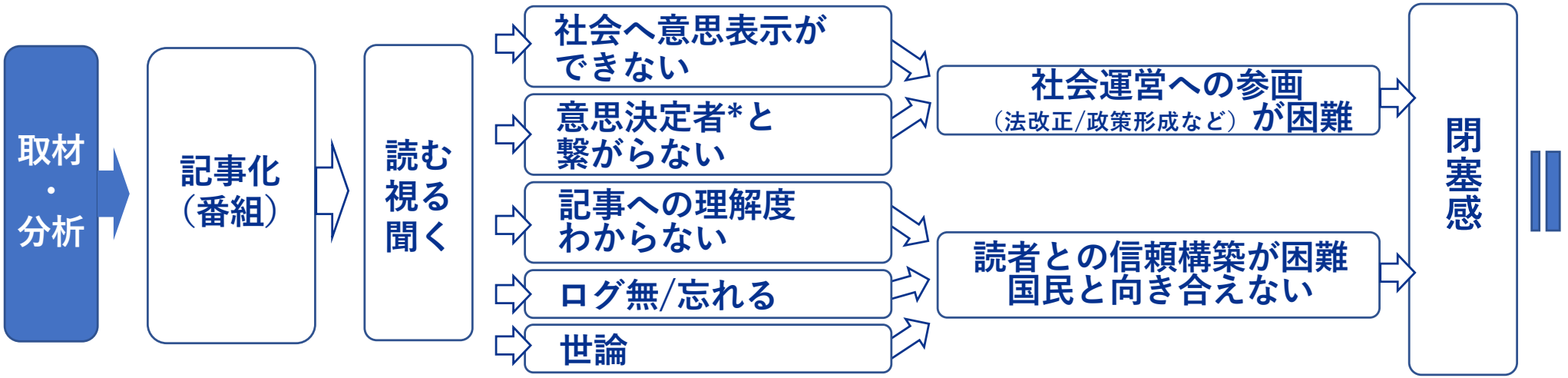


© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

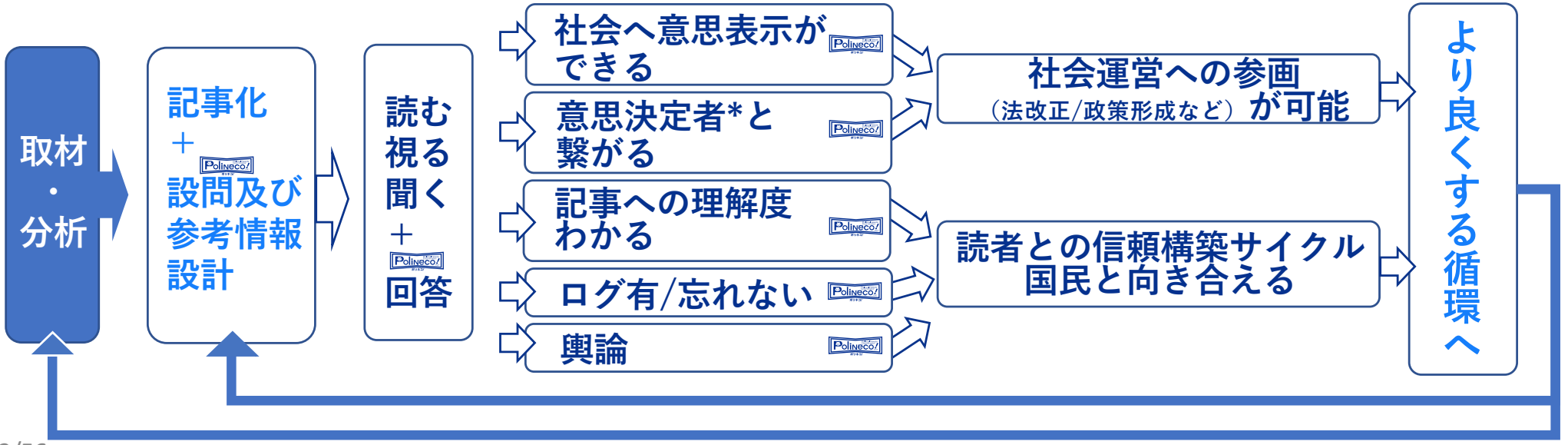
特許取得の独自プロセスで実現すること

従来メディア型アーキテクチャとの比較

●従来メディア型のUXフロー/アーキテクチャー



●ポリネコ！型のUXフロー/アーキテクチャー



© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

Political Needs Coordinator
Polineco! PAT
ポリネコ!

『ポリネコ！』は、
新聞、テレビの機能拡張、①
地方自治体におけるコミュニケーション再構築、②
中央省庁が主導する政策形成・運用のための
コミュニケーション、③
企業やNPOによるオープンロビイング、④
新しいニュースサービス⑤など
個人と社会、地域をつなぎ
信頼に基づく最適解をつくることが
求められる各分野での活用が想定できます。

①新聞、テレビの機能拡張『ポリネコ！』に活用することで、記事や番組から政策形成、社会に繋がるUXと価値を提供

②自治体DXに不可欠なコミュニケーションのDXを『ポリネコ！』で具体化できます、同時に、日本型のスーパーシティ、スマートシティの「新しい住民参加」を具体化

③政府による『信頼』形成のコミュニケーションを『ポリネコ！』で実現可能
GIGAスクールの実装、エネルギーや漁業など国民的議論、アジャイルガバナンスが求められる政策課題に対応

④社会的意義のある事柄についての輿論形成を企業やNPOの提起から『ポリネコ！』で実現

⑤データ、ファクトを踏まえた輿論をもとに、政治家と一緒に課題解決、ビジョン形成等に参画できるニュースサービス

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

特許取得の独自プロセスで実現すること

活用領域、テーマ

- 教育行政
- 自治体、地域経営
- 社会保障
- エネルギー政策
- 漁業、林業、農業政策
- データ・プライバシー
- デジタルガバナンス
- 社会全体のビジョン

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

『ポリネコ！』で実現すること

まとめ

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

デジタル環境が前提となる**これからの社会**では、
政府という存在は、遠くにある批判や監視すべき対象から、
私達自身と繋がり協調し上手に使う道具となり得ます。

そのためには、ひとりひとりがデータやファクトに基づく
思考と意思表示を行い『信頼/TRUST』の構築に向け、
相互参照を行うコミュニケーション＝国民的議論が不可欠です。

『ポリネコ！』は、
国民的議論を可能にする**唯一**のコミュニケーション方法です。

岩田崇
株式会社 ハンマーバード / takashi@hammerbird.jp
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp